

# 「藤樹紙芝居」を使った道徳性を養う指導展開プラン（その①）

## 1 主題（子どもに身につけさせたい内容）

「相手のことを思いやり、進んで親切にすること」

道徳的価値：中学年 親切、思いやり

## 2 紙芝居題

藤樹紙芝居① <そばやのかんばん>

## 3 主題に迫る

藤樹紙芝居「そばやのかんばん」は、藤樹先生が一枚の看板を書くのにも、いい加減にされないで、そば屋の主人に喜ばれるように納得がいくまで練習された姿が描き出されている。人への思いやりをもって先生の努力された行為と自分の経験とを照応させながら、親切や思いやる気持ちの大切さを考えさせたい。

一方、この資料は、藤樹先生がご自身で納得されるまで何枚も練習された行為を強調すると、主題を「自分でやろうと決めた目標に向かって強い意志をもって粘り強くやり抜くこと」道徳的価値：中学年 努力と強い意志 に設定して展開することも出来る。

## 4 紙芝居の概要

ある日、藤樹先生は、隣村のそば屋の主人から「そば屋の看板を書いていただきたい。」と頼まれた。藤樹先生は、十日も練習して見事な看板を書き上げた。

ところが、加賀の殿様が京都へ向かう途中、そば屋で休んだとき、その看板が目にとまり、そば屋に譲ってほしいと頼んだ。少し考えたが、そば屋は、「また、書いてもらえばよい。」と思い、大金で売ってしまった。

再び、先生に看板の制作を頼みに行った時に、前の看板を書くために練習された何枚もの下書きの入った「はんびつ」を見せられた。そば屋はそんな先生の真心のこもった看板を許しを得ないまま、売ってしまったことを悔やむ。

## 5 指導過程

展開のしかた	問いかけ	留意点
<p>1. 資料（紙芝居）の題名を知る。</p> <p>2. 紙芝居の上演を視聴して話し合う。</p> <p>○おとのさまは、看板を見てどう思われたでしょう。</p> <p>○そば屋の主人から、看板をおとのさまに譲ったという話を聞かれたとき、藤樹先生はどんな気持ちになられたでしょう。</p> <p>○はんびつの中の藤樹先生が練習された下書きを見た時、そば屋の主人はどう思ったでしょう。</p> <p>○藤樹先生が一枚の看板を書くために、どうして何枚も練習されたのでしょうか。</p> <p>3. 学習をとおして、学んだことを話し合う。</p>		<p>・そば屋の看板が、見事に書かれてあったことをしっかりおさえる。</p> <p>・自分のために、藤樹先生が何日もかけて書いてくださった看板を手放してしまったそば屋の主人のやるせない気持ちに気づかせる。</p> <p>・そば屋の主人に喜んでもらえるように昼夜を問わず、精一杯取り組まれたことに気づかせる。</p>